小学館P+D BOOKSとして復刊にあたり

小野友五郎を描いた『怒濤逆巻くも』を新人物往来社から上下巻で出版したのは2003年、内容を見直して文庫化したのは2009年である。その後、どちらも絶版となった。

一方、主人公を顕彰する「小野友五郎を伝えてゆく会」が、出身地である茨城県笠間市で立ち上がり、活動は年々活発化していた。

友五郎は、文化14年（1817）笠間藩の下級武士の家の四男として生まれた。数学の才能が際立っていて養子となり、家督を継いだ1836年、時代は怒濤逆巻く幕末へと突き進んでいた。

日米和親条約の締結で日本が開国した1854年、友五郎は幕府の天文方でオランダの航海術書の翻訳をし、翌年、長崎海軍伝習所の一期生に抜擢された。

小栗上野介と出会い、強大な海軍力を持つことが、外国の侵略を阻止するための最重要課題であり、また国内の近代化を進めることが、開国した日本の平和的な発展方法であることを教えられた。

1860年、友五郎は、咸臨丸の航海長として太平洋横断を成功させ、帰国後、幕臣に取り立てられた。そして、1867年幕府が瓦解するまで、蒸気軍艦の国産化、小笠原諸島の測量、横須賀造船所の建設計画立案、軍艦購入使節として二度目の渡米をするなど、テクノクラートとして八面六臂の働きをしたが、その根底には平和希求の想いがあった。

それは、明治になって、鉄道敷設のための測量調査や製塩事業に注力したこと、そして生涯数学教育にも関わったことが如実に語っている。

現在、世界は地球規模で怒濤逆巻く状況である。そのような中、『怒濤逆巻くも』の復刊ができたことは意義深い。

令和6年（２０２４）　　鳴海　風